



理学部同窓会だより



発行：2014年5月1日
発行者：学習院大学
理学部同窓会

特集

南1号館の歴史と今

大正12年9月1日の関東大震災で旧制中等科・高等科理科特別教室等が焼失し、授業は仮校舎で行っていた。

校として再出発、理学部は昭和24年5月に入学式を行い物理科及び化学科の2学部、第1学年のみ63名で発足した。

そこで大正14年9月に理科特別教室（現南1号館）の建設に着工、昭和2年3月に竣工、4月より旧制中等科・高等科の物理・化学・博物学の授業を開始した。この建物の設計は宮内庁内匠寮で、学習院最初の鉄筋コンクリート、地上3階、地下1階建て、外観はネオ・ゴシック様式を基調としスクラッチタイ

修を行い、電線は露出配線、单相100V、三相200V、発電機による大容量直流電源及び蓄電池による直流も供給され、給水及びガス配管も整備された。35年頃まで3階の廊下には博物館で使用された標本が有った。

れ、天井が高く漆喰壁、堅羽目板腰高、窓は天井部分まで伸び、採光にも優れ、木製の床板、露

昭和三十八年に別館が建てられて理論物理学の研究室が移り、昭和36年の南2号館の完成により有機化学及び無機化学の研究室が南2号館に移動した。

出の電気配線、配管、ドラフトチャ

南1号館は平成22年の南7号館（理学部研究教育棟）の完成により理学部校舎としての83年の使命を終えた。

ンバー等が設置されていた。

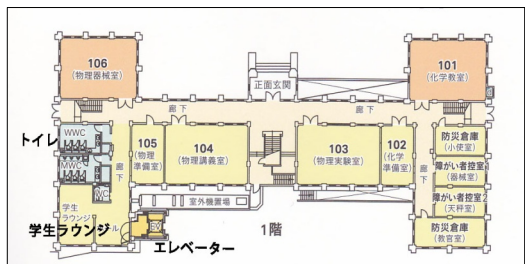
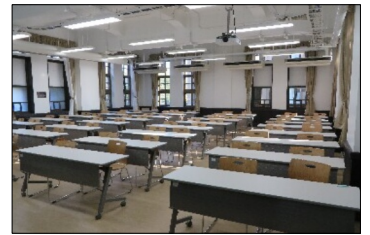
南1号館は平成21年4月に国の登録有形文化財に登録・保存され、一般教室棟に変更された。耐震・バリアフリー化に合わせ



て南側にエレベーター、各階にトイレ、学生ラウンジも設置された。教室部分は建設当時の広

さに戻され、大小13の一般教室となった。

その内6教室は理学部当時の内装を再現し、窓枠、オリジナル木製家具を修復再利用、ドラフトチャ



改修後の1階平面図

建物の西側に学生ラウンジとトイレ、南側にエレベーターが増設されている。

研究室便り 高橋研究室



高橋利宏教授

高橋研究室では、「電気が流れる有機物」有機分子性導体の物性を主に固体NMR（核磁気共鳴）を使って研究しています。対象は電荷移動型の有機分子の集合体です。分子間を電子やホールが移動して伝導を担いますが、この電荷の移動方向が分子の配列によって制限されるため、一次元や二次元の金属と見なすことが出来ます。そこでは温度や圧力をパラメーターにして、低次元電子系特有のさまざまな現象が期待されます。有機物であるにもかかわらず無機金属並みの高い伝導を示すと思ったら、低温でいきなり絶縁体に転移したり、その絶縁相に適当な圧力（静水圧や一軸圧）をかけると超伝導になったり、その多彩な現象には驚かされます。2010年のノーベル物理学賞がグラフェン（グラファイトの炭素の層を一枚だけにした純粋な二次元系）の特異な物性の研究に与えられましたが、グラフェンと同様な物性が高橋研で扱って

いる分子性導体でも確認されています。

3台ある超伝導電磁石を冷却し、極低温までの測定をするためには液体ヘリウムが不可欠ですが、本学には、1985年に当時の川路紳治教授が導入されたヘリウム液化器があり活躍をしています。蒸発したヘリウムガスは回収して再び液化して使用します。ヘリウム液化機は南4号館の地下のドライエリアに設置してあったのですが、建物内に収納する必要に迫られ、昨春秋、高橋研の実験室内に移動しました。おかげで実験装置を置くスペースが大幅に狭くなりましたが、液化機の恩恵を受けるためには、やむを得ない決断でした。どうぞ見学においでください。（高橋利宏）





北の国から来た手紙

寄稿 名誉教授 飯高 茂

年賀状も来なくなつた今年1月14日に北の国から1通の手紙が私の自宅に届いた。

千里馬の70ウオン切手が4枚はつてあり、差出人と住所はハングルだからよく分からない。消印をみると2014.01.11 PYONG YANGとある。手紙の差出人は全く存じ上げない方だが、彼の手紙は数年前から学習院大学在籍中の私に届くようになっていたので驚きはとくにない。最初の手紙は住所として

東京、学習院、飯高教授様 日本

とだけ書いてあった。これで郵便を配達してくれる日本郵政に感謝した。

最初の手紙は2006年の発行の雑誌「数学セミナー」に載つた私の微積分の教育法についての意見に共鳴して手紙をくれたのである。数回のやりとりの後半年以上音信不通だったのだが、自宅に手紙がまた来ることとなつた。その間に直腸がんの手術を受け、簡単に退院はできなかつた。この手紙で書かれている。本文は大学の数学教育について

この手紙の一部を紹介しよう。

飯高茂先生様

新年おめでとう、ございます。お達者ですか、夫人様は健康ですか。あなたの著書《体論、これはおもしろい》外1巻の参考書を5月10日に有難く受け取りました。代数学発展に関する教育に大きな助けを受けました。6月初に私は右手の神経

収縮で細胞の生理的な変化では無く、すぎなとうがらしのたべすぎで直腸がんの手術を受けてこのように助かりました。人間の運命の責任を果たす国策により自由退院ができなく11月初に完全治療で退院しました。意見交換がおそくなつてとてすみません。私は常にあなたが70の老年だから生活で青春の精神を取りもどし運動を生活化することを心から願っています。その間、転宅しました。現住所は封筒の通りです。

世界解析学教育でEid論法とその教え方で現れている恐ろしい偏向を克服する意見を始めから送るつもりでしたが道徳的に偏向の結果だけを送つたのです。その後それに対して意見を手紙の制限で消極的に送りました。今日は言います。

あなたが小文で言った《Eid論法は単に解析学の基礎であるに留まらず数学の論理の非常に良い教材である》に根本をおきます。《中略》

第一 数学と数学教育には不可避に間が生じて又現代数学の抽象性が高くなり論理性が強くなっています。《中略》

論理又はその規範に対する教育は言語生活と該当期間の数学対象で見るとすくなくとも高等学校から始めることができると思います。解析学のEid論法は集合、条件、写像を部分概念とする概念が成立すると見る。

後略

彼の漢字名は李英吉で、数学と教育を愛する純な精神の持ち主であることは、手紙から察せられる。手紙の往復、数学書の郵送などに何の障害もなかった。韓国から北と手紙の往復は厳に禁止されているようだ。

技術交流会委員になって

昭57化卒 阿部史治

私は57年化学科石井研を卒業いたしました。長かった出張族、海外赴任から一昨年末帰国後、家にいる生活を昨年開始。そんな時見学会の記事を目にし参加したのがアサヒビール工場見学会でした。この見学棟は弟が二年間建設の為現場監督をし



阿部史治氏

た建物であることを後で知りご縁を感じました。

今は鈴木明事務局長、山崎晶三先輩を始め事務局の一員として皆様へ交流会の開催案内をお送りさせて頂いています。年3回は理学部の先生と理学部の同窓会会員の2名の方に講演を頂いており更に新年には見学会(講演)、理学部同窓会新年会を、6月には理学部同窓会総会、そして講演会を行っています。終了後は懇親会を開催し理解出来なかつた講演内容のフォローとなります。

今年度は紙から電子データへ「活動のデジタル化」を推進しています。交流会名簿、講演記録、議事録など同窓会の大切な資産を保管し、今迄多くの先輩が築き上げて下さった活動を受け継ぎ残せるようにする大切

な作業です。技術交流会は平成9年12月6日第1回が開催され次回総会で78回を数える迄になりました。

頭が痛いのは限られた予算の中でどう備品を用意するかです。そしてもうひとつは家が群馬県磯部にあり東京迄出かけるのが大変なことです。東京に勤めればいつでも参加可能になるので今年には私自身再就職したいと思

います。メルアドを登録して頂くと開催毎に案内メールを差上げていきます。さらに理学部同窓会ホームページでは技術交流会を含む行事の開催予定、過去の活動内容をご覧頂けます。是非登録して頂きメールが届いた際など定期的にホームページの閲覧をお願い致します。

【訂正とお詫び】

第1号の記事「学習院大学35年」において、小林先生のお名前の表記に誤りがありました。お詫び致します。

(誤) 小林貞之介
(正) 小林貞之助

編集後記

浅野様から第1号に掲載した「南1号館の思い出」の記事について訂正の依頼がありました。浅野氏が中3だったのは昭和21年・工作工場でお世話になった方に若井田さんを追加する。

特集で紹介した「学習院 南1号館 再生した旧理科教場」は丸善プラネット社発行、本体価格1200円+税、全国書店、秦々会及び学内成文堂書店で発売中です。